

秋元 哉子
隊員



地域おこし協力隊3年目は、陶芸体験や商品開発・販売を通して沢山の方々と関わる事ができました。残り1年間の目標は、カム口窯を沢山の方々に認知して頂けるよう製品や体験の精度を高めながら、周知していきたいと考えています。

また、1年目から進めてきた新たな最上町の工芸品を完成させたいと思っています。残り少ない任期ですが、一日一日を大切にしながら精進したいと考えておりますので、応援宜しくお願いします！

地域おこし協力隊通信

回想 そしてこれから

今年度の振り返りと来年度の目標

地域おこし協力隊の任期は最長3年となっておりますが、新型コロナウイルス感染症により活動に大きな制約を受け、任期中に十分な活動ができなかった隊員については、任期を延長することとなりました。

これにより、最上町地域おこし協力隊として令和3年4月より着任した、秋元隊員、川和田隊員、張隊員の3名は任期を1年延長することとなりましたので、引き続き活動に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

張 申豪
隊員



これまでの3年間を振り返ってみると、自分のミッションである国際交流について試行錯誤の日々でした。目標を設定しても思い通りにはいかず、その時の状況に合わせて変更しつつ達成に向かうこともありました。いつでもチャレンジ精神を忘れず、積極的に町内イベントへ参加し地域交流も行ないながら、活動してきました。

最後の1年は、これまでの活動を引き続き行ないつつ、退任後にこれまでの活動を活かした仕事をしていけるように準備を進めていきたいと思っています。

Facebook で張隊員の活動を見ることが出来ます



川和田 宗太郎
隊員



地域おこし協力隊最後の1年間の大きなトピックスとして、最上町の資源を活用して作る工芸品「最上焼(仮称)」があります。

最上焼(仮称)とは最上町で取れた土石類を用いて作る器です。その器を完成させるためには様々な条件があり、その中でも土石類が継続して採取でき、安定性を確保することが重要です。一見土を取ることを考えると簡単に思える作業ですが、生産性や法令等を視野に入れるととても難しくこれからの大きな課題です。

その他、通年で進んでいる陶芸体験や陶器販売などを継続しつつ、退任後に向けての準備を進めていきたいと思っています。

カム口窯の活動を見ることが出来ます →

【X】

【Instagram】

【Facebook】

「生きる力」を育む 最上町の体験活動2

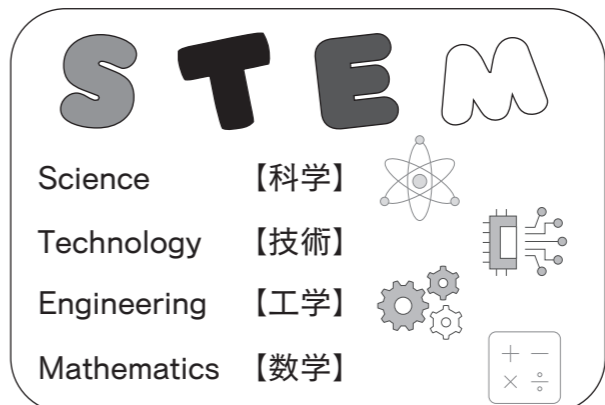


ものづくり体験活動

2月号で掲載したシリーズ95では、多様な体験が子どもたちの自尊心を高め、新しい事への挑戦意欲を引き出すといったことをお伝えしてきました。学校の授業においても体験活動を重視し、子ども自身が考えたり、探究したりする活動を行なっています。その中で、学校で学ぶこと以外にも、もっと追求してみたい、探ってみようという要望に応えてくれるのが最上町の自然を活用した体験の場である「ワイルドエドベンチャースクール」と「わんぱく学校」であることも紹介しました。

STEM教育とは？

STEM教育とは、子どもの頃からコンピュータやIT技術に触れて、これからますます進歩する科学技術社会の中で、主体的に生きていく子どもを育成を目指すものです。



※STEM教育とは上記4つの頭文字をとったもの

とを自分で調べることができ、また、自分の力にあつた学習を行なうことも可能です。言い換えれば、これまでの「先生が教え、生徒は覚える」という学習スタイルから「自分で学び、自分で理解していく」スタイルへ変化したことになると思います。そこで必要になってくるのが、「自発性、創造性、判断力、問題解決力」です。その育成を担うのがSTEM教育です。

もがみ科学そうさく隊

「もがみ科学そうさく隊」は、最上の自然の豊かさと、科学の楽しさを子どもたちに伝えたいとの思いで、令和2年から活動を始めました。そして今年度も「もがみ子



はんだ付けを行なっている様子

ども未来塾」として、「瀬見癒しの道」や野頭周辺での自然観察会を9回行ないました。(すべて終了)

STEM教育と直接関わってくるのが、冬場に行なった科学工作編です。この学習会は「電気をつくる、電気をためる、電気をつかう」をテーマとして9回にわたって行なわれ、参加者は小学校低学年の児童から中学生までの8名に、大人も加わり総勢20名近くでスタートしました。目標はクローラーを動かすこと。始めは発電機の制作です。子どもたちは初めてはんだ付けに挑戦しました。

連載8年間 ありがとうございました

小学校の再編、PCタブレット端末の活用など、教育環境が大きく変化する中、町の児童・生徒の活動を中心に紹介してきました。連載96回の本シリーズは、今回を持ちまして終了となります。長い間ご愛読頂き、誠にありがとうございました。



クローラーの組み立て作業

このように科学技術に触れるものづくり体験を通して、自発的に学ぶ、自分で理解する、自分で発見していく力をつけることで、これからの複雑で予測のできない社会の中でも、前向きに生きていくことのできる資質が養われると考えます。

解決できるよう見守っていただきました。苦労に苦労を重ね、発電機で生じた電気をコンデンサーにためて、スイッチを入れたら、クローラーが動いた時の感動はとても大きいものがありました。